

レジメン名称	1コース	催吐性リスク
MVEC	28日間	軽度催吐性リスク(day1,15,22) 高度催吐性リスク(day2)

				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	
薬剤		用量	用法																													
アプレピタント125mg		1cp	1×化学療法60～90分前	●																												
アプレピタント80mg		1cp	1×朝	●	●	●																										
デキサメタゾン		8mg	1×朝 or 2×朝・昼	●	●	●																										
滴下順	薬剤	用量	ルート	投与時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
1	ヴィーンD 炭酸水素ナトリウム	500mL 20mL	メイン	2時間	●																											
2	アセタゾラミドナトリウム 生理食塩液	250mg 50mL	側管	30分	●																											
3	メトレキサート 生理食塩液	30mg/m <sup>2</sup> 50mL	側管	30分	●																											
4	ヴィーンD 炭酸水素ナトリウム	500mL 20mL	メイン	2時間	●																											
5	ヴィーン3G 炭酸水素ナトリウム	500mL 20mL	メイン	2時間	●																											
1	ヴィーンD	500mL	メイン	2時間	●																											
2	ヴィーンD	500mL	メイン	2時間	●																											
3	パロノセトロン デキサメタゾン	0.75mg/50mL 9.9mg	メイン	15分	●																											
4	ビンブラスチン 生理食塩液	3mg/m <sup>2</sup> 50mL	メイン	15分	●																											
5	エピルビシン 生理食塩液	30mg/m <sup>2</sup> 50mL	メイン	15分	●																											
6	生理食塩液	50mL	メイン	30分	●																											
7	20%マンニトール	300mL	メイン	30分	●																											
8	シスプラチン 生理食塩液	70mg/m <sup>2</sup> 300mL	メイン	2時間	●																											
9	ヴィーン3G	500mL	メイン	2時間	●																											
10	ヴィーン3G	500mL	メイン	2時間	●																											

day15,22は2ページ目に記載

滴下順	薬剤	用量	ルート	投与時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	
1	ヴィーンD 炭酸水素ナトリウム	500mL 20mL	メイン	2時間															●							●							
2	アセタゾラミドナトリウム 生理食塩液	250mg 50mL	側管	30分															●							●							
3	メトレキサート 生理食塩液	30mg/m <sup>2</sup> 50mL	側管	30分															●							●							
4	ビンブラスチン 生理食塩液	3mg/m <sup>2</sup> 50mL	メイン	15分															●							●							
5	ヴィーンD 炭酸水素ナトリウム	500mL 20mL	メイン	2時間															●							●							
6	ヴィーン3G 炭酸水素ナトリウム	500mL 20mL	メイン	2時間															●							●							

MTXによると思われる副作用が発現した場合、ホリナートカルシウムとして成人1回10mgを6時間間隔で4回経口投与する。  
腎機能の悪い患者に対して、予防的にホリナートカルシウムを服用させてもよいが、予防投与によるMTXの副作用発現抑制ができるというエビデンスはない。